

# てんかん 正しく知って

てんかんへの正しい理解を広めるための啓発活動が17日、サンフレッチェ広島の試合会場のエディオンスタジアム広島（広島市安佐南区）で行われた。広島大学病院てんかんセンター（南区）が国際的なてんかん啓発活動「パープルデー」にあわせて実施するもので、今回4回目。

会場では、医療関係者など約60人のボランティアが啓発用のチラシやバッジを配布した。サポーターらは特設ブースを訪れ、選手らが「僕たちも応援しています」などと記した紫色の横断幕に、「知ることの大切さがわかった」など

と寄せ書きをした。

同センターによると、国内には推定100万人のてんかん患者がいるが、専門医による適切な診断や治療を受けにくいことや、病気に対する正しい理解が進まないという課題がある。

啓発活動に参加した安佐南区の女性患者（34）は15歳で発症。病気で仕事を辞めたこともあるが、結婚して子どもに恵まれ、今は治療を続けながら理解ある職場で働いている。「てんかんがあっても充実した日常生活を送れることを知ってほしい」と話していた。

（清水康志）



選手のサインが書き込まれた横断幕に、てんかん患者への応援メッセージを寄せ書きするサポーターら＝広島市安佐南区

## 広島病院が啓発活動 選手らも応援 エディオンスタジアム

朝日新聞の許諾を得ています

掲載日付 2019年3月18日

朝日新聞社に無断で転載することを禁じる

承諾番号 19-1284